



10/15/2014

セカンドハーベスト・ジャパン 代表のメッセージ

6年後に、東京でオリンピックが開催され、世界中から多くの人々が訪れます。初めて日本を訪れる人もいれば何度目かの人もいるでしょう。この人たちはオリンピックを見るだけでなく、私たちの東京という街を見ます。私たちは彼らの記憶に何を残したいでしょうか？どんな東京を見せたいのでしょうか？

こんな話をすると、日本初のフードバンク設立者の言葉としては、変に聞こえるかもしれませんが。しかし、私たちが他の国々からどれだけ遅れているかを考えてみましょう。ニューヨーク市では、1,100もの場所で困窮する家庭に緊急食料が提供されています。韓国では、400ものフードバンクとフードマーケットが困窮者を支援しています。東京はどうでしょう？東京では、セカンドハーベスト・ジャパン(2hj)と、他に1,2団体だけです。それが、今の「食のセーフティネット」の現実ですが、私たちはこれを一緒に変えることができます。

6年後、私は、世界中から訪れる人達に、小規模でも質の高い、日本のフードバンクを見せたいと思います。私たちがこれまで誰よりもうまくやってきたことをやり続けたいと思います。つまり、海外からの新しいコンセプトを日本の文化に合うように変えていくということです。日本の文化に適した食のセーフティネットの形を6年後に示せるよう皆さんと協働しながら努力していきたいと思います。

2012年、日本の「子供の貧困率」が、16.3%と過去最悪を更新しました。1985年の統計開始以来、初めて子供の貧困率が、「相対的貧困率」を上回りました。飽食の日本でも、お腹を空かせている子どもが大勢いるのです。

この子どもたちのためにも、日本文化に適した、持続可能なやり方で余剰食品とニーズを効果的にマッチングするシステムを作り上げます。私たちにはこれができると信じています。そして今こそこれに取りかかるべきです。実現させるには、皆さんの協力が必要です。

最初の一步は、以下の、セカンドハーベスト・ジャパンの新しいビジョンを理解してもらうことです。

セカンドハーベスト・ジャパンは、「すべての人に食べものを」という当初のミッションを再確認します。その為に、年内のメディア出演は控え、本来の活動に集中します。その間、メディアの依頼がある際は、他のフードバンクを紹介させていただきます。私たちは、同意書を結んだ550社以上の食品提供企業との関係をさらに良くしていくことに注力します。共に活動を運営して下さっている6,000人以上ものボランティア・インターンとの関係も深めていきます。そして、私たちの事業を支援してくれている30社以上の資金スポンサーとのさらに新しいパートナーシップを模索していきます。

2hjの組織の内部では、スタッフの相互協力とワークライフバランスに重点を置いたプロフェッショナル集団の組織を作ることに注力したいと思います。企業からの協



力を得て、プロフェッショナル集団としての文化構築のため、ガイダンスやリーダーシップトレーニングを行います。スタッフが、自己の業務、仕事をする仲間、組織のミッションに情熱を持つ組織となると同時に、多くの人が働きたいと思う団体になってほしいと思っています。

組織の外へ向けては、2つだけ問い続けたいと思います。1つ目は、「私たちの活動・事業は、より栄養のある食品を困窮者に提供しているか？」 2つ目は、「これがセカンドハーベスト・ジャパンの長期的な持続可能性につながるか？」ということです。私たちは、日本最大のフードバンクであり、日本フードバンクのリーダーだと思っています。しかし、私たちだけで全てのことができるわけではなく、全ての人に全てを提供できるわけではありません。自分たちが得意なことに集中する方が、全てにおいて失敗するよりもよいのです。時には、Noと言わなければいけないこともあるかもしれませんが、最終的にはYesと言える道を探していきたいと思っています。

みなさんに私たちのビジョンを理解していただけたら、次のステップは、皆さんにできることを考えてもらうことです。私たちだけではできません。パートナーが必要です。皆さんなしでは、食品を、支援を必要とする人たちの手元に届けることはできません。来年は、皆さんの協力を仰ぎたいと思います。現在、三つの分野にて支援が必要です。

- スペース：現在の場所は限界に達していて、移転する必要があります。
- 持続可能性：良いスタッフを雇い、より大きな場所へ引っ越すには、資金面での持続可能性を上げていく必要があります。
- 食料配給パートナー：提携FB団体を通じて、食品を提供していますが、食のセーフティーネットを構築するためには、この提携団体の数を増やす必要があります。

こうしたことを実現するために、あなたができることは何だと思えますか？どんな行動をとれるのでしょうか？ 私に声をかけてください。一緒にどうやって協力していけるかを話し合いたいと思います。

6年は、準備をするにはそれほど長い時間ではありません。2020年には、世界中の人々に注目されます。その時には持続可能な食のライフラインとセーフティネットすなわち「誰もが、毎日安心して“いただきます”と言えるような社会」のためのインフラを構築できると自信を持って言いたいと考えています。基本に戻るの、大切な第一歩です。一緒に、誇りに思えるような、人々が話題にするような社会的インフラを築きたいのです。次の世代へ残せるものを築くことはできると思うのです。


Charles E. McJilton
Executive Director
Second Harvest Japan
(Reg. No. 0105-05-001419)


マクジルトン・チャールズ
理事長
セカンドハーベスト・ジャパン
(会社法人等番号 0105-05-001419)